常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年１０月１５日(金)

◇ 学習発表会に向けて

各学級では、23 日(土)の学習発表会に向けた活動が本格的となり、最近は、校内に流れる空気が明らかに変わった。日ごとに冷気を増す気温とは対照的に、校内の空気は子供たちの熱量により活気を帯びてきた。並行して「おかざきっ子展（※昨年度と同様にＷＥＢ展示に加え、学習発表会に合わせて校内展示も行う）」の作品作りも行われ、活動量が増えたことが子供たちの熱量と活気を生み出している。
「子供も、担任も、大変…」と心配になるかもしれないが、実はそうではない。

活動に励む子供たちは、やる気に満ち、指導する教師も子供の活動熱に負けない勢いが感じられる。互いが刺激し合い、相乗効果によって高められ、育まれた学級ベクトルが、各学級とも右肩上がりに増長しているからだ。まさに、学級が、子供たちが、「乗っている」という状態なのである。

活動にやる気をもって臨む子供たちの真っ直ぐな心と姿勢。こうした子供たちの真摯な姿を見ると、改めて行事の必要性を感じる。

指導する担任の心情はどうかと言えば、思い悩むことも無いことはないが、それを打ち消してしまうほどの充実感がある。
担任していた頃の自分の経験で言えば、「子供の成長」と「学級力の伸長」の実感である。まさに、ぐんと伸びているのが手に取るように分かるのだ。しかも、日を追うごとにその成長が大きくなる。担任をしていて、これほどの充実感は他にない。しかも、目の前には子供たちの直(ひた)向きな姿がある。子供たちの心「ものを作り上げる」「皆で力を合わせて完成する」という学級としての着陸地点に向けて、子供たちの見えない心の矢印が、びしっと同じ方向を向いている。これは、このうえなく嬉しく、子供たちが頼もしささえ感じるのだ。

だから、学習発表会は４月や５月にはできない。形にはなっても、深まりがない。学級開きから半年。この半年で子供たちが刺激し合いながら高めた学級力と担任が日々伝え続けてきたことが集結しはじめる 10 月の今だからできるのだ。

さて、演目であるが、本校は２学年合同で行い、これに加えて上学年(４～６年)の特別演目がある。

＜１・2年＞	民話劇	９：０５～
＜３・４年＞	合唱、合奏、朗読劇	９：５０～
＜５・6年＞	群読、合奏	１０：２０～
＜4・5・6年＞	伝統芸能「常磐獅子」＆「篠笛」	９：３０～

ざっと上記のような内容。本校は令和元年度まで行っていた「学芸会」を、昨年から「学習発表会」に変更した。「篠笛」は「鼓笛クラブ」の活動発表で、「普段の学びの成果を発表する」のがねらいである。

そんな中で、是非とも紹介したい演目がある。【＜３・４年＞合唱】である。
普通の合唱ではない。【手話合唱】である。

本年度４月、４年生に転校してきたＡさんの特技は「手話」。このことを知った４年生の音楽を指導する伊藤和代先生が、授業で「歌唱」に「手話」を取り込む授業を展開された。仲間への手話の示範はＡさんが担った。これにより、Ａさんは一気に学級に溶けこむようになる。ナイスプレーその❶だ。

さらに、この音楽授業の情報を得た担任が、Ｉ学期から行ってきた「手話歌唱」を演目に取り込んだ。これまたナイスプレー❷。

演目に加わる３年生。普段の音楽授業で手話は行っていないこともあり、手話の出番を限定し、4年生との差が出ないように工夫されていた。ナイスプレー❸。

練習の様子を覗いてみる。４年生を前・中列に配置し、Ａさんのポジションは中段のど真ん中。後列に位置した３年生が、いつもお手本を見られるように工夫されていた。ナイスプレー❹。
しばらく間を置いて練習の様子を覗いてみる。手話がおぼつかなかった３年生が４年生に負けないほど大きな動きの手話だ。自信をもって手話を行っていることに驚くと同時に、ぽかぽかと心が温まる。

大切なのは、つまみ食いで演目を行うのではなく、これまで学んできたことを学習発表会の演目としていることにある。しかも、よくＴＶで見かけるようなロパクではない。表情豊かにうたう歌唱が加わる。この歌唱も実にいい。
視覚と聴覚に訴える本校独自の演目。それが「手話歌唱」なのである。

他演目も心が温まるものばかり。一生懸命な児童の姿を是非ご覧いただきたい。